

知的障害特別支援学校における 「指導と評価の一体化」について —実習校現職教員へのアンケート結果より—

目的

特別支援学校における「指導と評価の一体化」について、現職教員の意識と授業中の見取り・判断・調整の実態を明らかにし、学習評価の充実と授業改善に向けた示唆を得ることを目的とする。

研究方法

対象：実習校の教職員 37名（回答21名）
期間：令和7年12月22日～令和8年1月2日
方法：無記名Webアンケート

結果

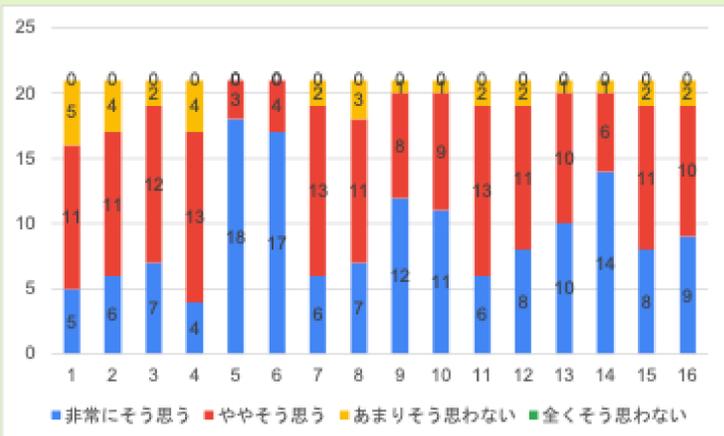


図1 4件法での質問項目の度数分布

表1 4件法での質問項目と下位尺度

I. 課題・結果の捉え方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもが課題を確実にできるようになることは、学習の中心だと感じる。 2. 指導の成果は、行動の変化として見えることが大切だと思う。 3. (逆転)子どもの取り組み方も大切だとは思いますが、実際には“できたかどうか”を基準に振り返ることが多い。 4. 指示に従えるようになることは、学習の基盤として重要だと感じる。
II. 子どもの様子・状態への注目	<ol style="list-style-type: none"> 5. 子どもの興味や得意な活動が、学習への取り組みを左右すると思う。 6. 子どもの微細な反応（表情・視線など）に注目することが多い。 7. (逆転)子どもの行動には“よいところ”より“直すべきところ”の方が目につきやすい。 8. 行動の結果よりも、その子がどのように感じていたかに関心が向く。
III. 指導の見直しや判断のつながり	<ol style="list-style-type: none"> 9. 子ども理解が深まると、指導の組み立てが自然に変わると感じる。 10. 指導がうまくいかないときは、環境や支援の方法や関わり方を見直す必要がある。 11. (逆転)評価は主に“できたかどうか”を整理するためのものだと感じる。 12. 子どもの取り組み方を理解することが、指導内容を改善するヒントになると感じる。
IV. 授業中の判断・調整	<ol style="list-style-type: none"> 13. 授業中、子どもの反応を見て、その場で説明の仕方や活動の進め方を変えることがよくある。 14. 子どもの表情や動きから「今は難しそう」「もう少しできそう」などを感じ取り、声かけを変えることがある。 15. (逆転)授業の最中に、子どもの様子を見て予定していた指導内容を変えることはほとんどない。 16. 授業の終わりだけでなく、活動の途中でも、「このやり方でよかったかどうか」を子どもの様子から確かめることが多い。

表2 所持免許以外の学校種・教科を担当して良かった点・困った点

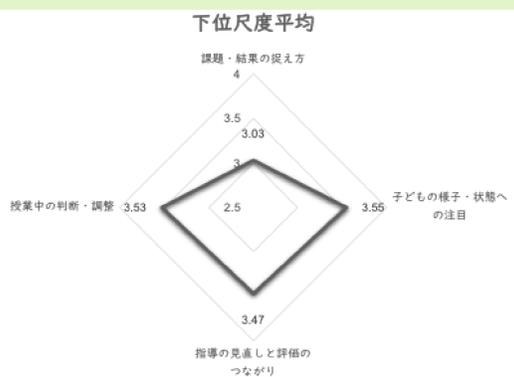


図2 下位尺度のレーダーチャート

表3 「指導と評価が一体化」したと感じた場面を下位尺度のカテゴリーに分けたもの

下位尺度	該当する回答
I. 課題・結果の捉え方	・自作のテストで、成果が出た時- シラバスの内容をしっかり組み込んだ授業ができたとき
II. 子どもの様子・状態への注目	・この説明では理解できていないなと思った時にその場でやり方を変えたら、生徒がわかった！と反応があった時。 ・こどもの取り組む姿勢に変化がみられたと感じた場面・美術の対話型鑑賞（子どもの反応をもとに学びを深める活動）
III. 指導の見直しと評価のつながり	・指導案で振り返りをしたり、個別の指導計画の評価をつけたりするとき。・単元計画を作るとき、評価（子供の成長した姿・できるようになった姿）を想像して、計画だてるようになった。
IV. 授業中の判断・調整	・この説明では理解できていないなと思った時にその場でやり方を変えたら、生徒がわかった！と反応があった時。（※IIにも該当するが、即時調整としてIVにも該当）・美術の対話型鑑賞（対話の流れに応じて調整が入るため）
それ以外	・「指導と評価が一体化した」が何を表すのかわからないので考えられません。

考察

全体として「子どもの様子を見取りながら授業中に指導を調整する」実践が定着していることが示された。項目5・6・14の得点が高く、教員が子どもの状態を丁寧に見取っている一方、項目1・4は相対的に低く、逆転項目の数値からは「できたかどうか」に目が向きやすい傾向も示唆された。自由記述では、免許外担当が「学び」と「負担」の両面をもち、視野の拡大や子どもの興味・特性への気づきにつながったという記述が多かった。授業中の反応を手がかりに指導を組み替える実践も多く挙げられ、「指導と評価が一体化している」と感じる場面が日常的に存在していた。これらを総合すると、教員は無意識のうちに形成的評価に相当する実践を高いレベルで行っている一方、専門性の保障や相談体制の不足が課題であり、校内での対話や研修の充実が求められる。

<参考文献>
国立教育政策研究所 2020 『指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料』
文部科学省 2020 『特別支援学校小学部・中学部学習評価参考資料』
文部科学省 2022 『特別支援学校高等部 学習評価参考資料』